



応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No.37

2007年(平成19年)6月28日(木)発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 **【4月15日に移転：住所のみ変更】**

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: ecas-manager@ecesj.com HP: http://www.ecesj.com/

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 江崎保男, 事務局長 奥村興平)

Contents

1	はじめに	1
2	次期会長・副会長候補の募集	1
3	理事会・幹事会の報告	2
1)	理事会	2
2)	幹事会	4
4	第11回大会開催案内	5
5	これからの行事案内	9
1)	第5回日韓合同セミナー	9
2)	札幌セミナー	10
3)	第6回北陸現地WS in 新潟	11
	<編集後記：事務局から>	12

1 はじめに

今回のニュースレターには次期会長・副会長候補募集、平成18年度会計概要、平成19年度事業計画および予算案に関する理事会・幹事会の報告、第11回大会開催案内など重要なお知らせが掲載されています。ゆっくり目を通して下さい。

多くの会員の方から会費を振り込んでいただいておりますが、未だの方がありませんら、会費の納入をお願いいたします。

2 次期会長・副会長候補の募集

今年度は次期役員改選期にあたりますので、会長と副会長候補の届出を受け付けます。会員の皆様におかれましては、以下の要領で候補者の届出をしていただくようお願いいたします。

【推薦を受け付ける役員】会長(1名)および副会長(3名)

【推薦の方法】自薦・他薦を問わない。正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて届け出るものとする。

【受付期間】2007年7月1日から31日まで

【届出の様式】ホームページ掲載の所定の様式
なお以下に、「次期役員候補選考制度」(2003年6月：第21回理事会で決定)の抜粋を掲載します。

<次期役員候補選考制度(抜粋)>

[1]制度と関連する規約

役員選考制度と関連する学会規約は第10条である。

[第10条 会長、副会長は総会において選出される。]

[2]制度の対象

本制度で候補を募る対象は、会長(1名)、副会長(3名)とする。

[3]候補

候補は、自薦・他薦を問わない。正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて届け出るものとする。

[4]期間

本制度に基づき候補を募る期間は、役員改選年の7月1日から7月31日とする。

[5]届出の様式

候補者の氏名及び推薦人名簿等は所定の様式(学会ホームページに掲載)で学会事務局まで届け出るものとする。

[6]候補推薦委員会

候補を募る期間中に届出がない、または定員に満たない場合は、推薦委員会を設置して候補を選考する。本委員会は、現会長・副会長および会長が指名する2名の理事からなるものとする。本委員会は、立候補・推薦期間後～総会までに開催する。

[7]総会での選出

総会では、会長候補・副会長候補となったもののなかからそれぞれ選出する。候補者が複数の場合は総会出席者による投票を行うものとする。

[8]広報

候補を募る方法等については、所定の期間までにニュースレターで会員に案内する。また、学会ホームページに案内を掲載し、一般に公開する。

- ・ 特別会計支出予算のうち、ICLEE 事務局維持費 15 万円は英文誌購読費と併せて計上したことが補足説明された。
- ・ 平成 18 年収支決算報告に会計事務所からの決算報告書(第 10 期)を添えて監事に監査いただくことが了承された。

3 理事会・幹事会の報告

1) 第 36 回理事会

日時：平成 19 年 5 月 24 日 10:00-12:00

場所：応用生態工学会会議室（千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室）

出席：山岸会長、谷田副会長、辻本副会長、近藤副会長、角野理事、竹村理事、竹門理事、春田理事、福岡理事、古川理事、森下理事、江崎幹事長
(事務局奥村：記録)

欠席：荒井理事、大村理事、沖野理事、鹿野理事、島谷理事、森理事

(1) 報告事項および関連意見など

1-1 一般経過報告（平成 18 年度）と平成 19 年度予定の報告がなされた。

1-2 会員状況については、賛助会員の退会について質問があり「業績不振による」との理由が書き添えられていたことの説明がなされた。

1-3 平成 18 年度会計概要報告について

- ・ 会費の未納を早期に解消するため、正会員・学生会員については 5 月末までに督促し、6 月末に退会処理を行い、また、賛助会費については再度納入のお願いを 5 月末までに行うことが説明された。
- ・ 地域が行う講座は、独立採算(収支バランス)が原則であるが、約 12 万円～6 万円の赤字となっている。本部補助金の目安を示す必要があるとの意見があった。

1-4 委員会報告

<1> 幹事会

第 29 回幹事会(平成 19 年 5 月 15 日開催)の議事録に基づき報告を行った。とくに、各委員会行事の主催の有り方、ホームページ改修（各委員会からの発信の場として利用するなど）や J-Stage 導入など委員会連携課題などに関する幹事会の提案などを説明した。

<2> 普及委員会

平成 19 年 4 月 26 日に開催した普及委員会の議事録(抜粋)に基づき報告を行った。

☆各地域の相談役

学会としては、紹介役や相談役を組織化(認知)することは避ける。とくに、謝金に関しては、知的財産に対する価値判断が難しく、契約まで行くとすると発言に対する責任が伴うなどの問題があり、また、データの信頼性の問題などもある。しかし、応用生態工学に関する未経験の課題について相談したいという地域の要望は理解でき、新たな課題が発掘できるおよび地域に異なる活動形態が見えるなどのメリットがあるので、地域ごとに研究者に参画いただき地域整備を図りつつ相談体制を創り上げて行くことが望ましいなどの意見・提案があった。

☆ポスター

作成の趣旨は理解されたが、具体策(=仕様書：30 万円の内訳、配布先など)を、次回理事会までに提出するよう指摘があった。

☆ 応用生態工学的課題についての専門委員会設置の提案

【普及委員会の提案】 専門委員会の設置について

具体的事業に対して応用生態工学会としてどんな“Output”が出せるかが問われている。個人の技量では限界があるが、技術課題毎に学会として受け皿（専門委員会）を作り対応していくことがよいと考える。

そのようなニーズ(情報)の共有・集約も重要である。以下に例をあげる。

- ① 自然再生型災害復旧検討委員会
現状復帰を原則とする激特事業について災害対応型環境配慮整備という考え方を提案していく。
- ② ダム堰撤去検討委員会
ダムや堰の撤去の是非と環境配慮方法を検討する
- ③ その他
湖沼水位問題検討委員会, 上下流問題検討委員会, 環境土砂動態検討委員会など。

本提案は、これからの応用生態工学会が担うべき重要な役割であるとの認識から次のような多くの建設的な議論が交わされた。本日の議論を踏まえて学会としての方針を審議することが幹事会に委ねられた。幹事会での議論には竹門委員長にも加わってもらおう。

【討議内容】

- ・ 幅広く基本を大切に、本質を捉えた問題提起ができることが必要である。
- ・ 検討会よりも研究会のほうがふさわしい。
- ・ 生態学と工学が一体で取組むにふさわしい名称が必要。
- ・ 提案された課題は何れも行政では対応が難しい、まさに当学会が先進的に取組む重要な課題であるが、地域や問題に特化した論議よりも、一般的な研究の観点から方向性を示せる論議がなされることが望ましい。
- ・ 地域活動はボトムアップ的な取組が望ましいが、先端的な応用生態工学に関する課題はトップダウンとして取組む必要がある。
- ・ 実態把握に基づいた課題抽出・解決策検討というシナリオを構築したい。

- ・ 管理者(行政)と学会員(研究者)が具体的に現場で検討しなければ有益ではない。
- ・ 政策提言やパブコメは当面考慮しない。

<3> 情報サービス委員会

平成 19 年 1 月 25 日に開催した委員会とその後の意見交換をもとに作成したホームページの改善方針と見積り(業者)を示し、3 年計画を提案したが、費用対効果などの点から再検討を求めることとなった。

1-5 役員改選関連について

次期(6期)会長・副会長候補届出方法・期間等の告示から第 11 回総会までの手順(後記)が確認された。

<次期役員候補推薦制度>による次期役員候補届出方法・期間等の告示

第 36 回理事会で決定(5月24日)



NL37 号掲載(6月下旬予定)



会長・副会長候補届出期間
(2007年7月中)



会長による推薦委員会
メンバー指名



委員会開催 (8月1-10日の間)
(会長・副会長以外も推薦)



第 37 回理事会 (8月10日頃)



大会プログラム案内に議案書同封
(8月20日頃)



出欠連絡・委任状・議決権行使書返送
(9月5日頃まで)



第 11 回総会(平成 19 年 9 月 16 日)



上記書面を含めた出席者の 1/2 の賛成により選任

(2) 検討事項

合計=1187名

2-1 平成19年度事業計画については、事務局案のとおり承認された。

・賛助会員：46団体・69口(7団体12口減)
 ・英文誌購読者：135(=正会員118名+賛助会員3法人+学生会員14名)

2-2 平成19年度予算案について

- ・ホームページ改修は費用対効果を考慮し、各委員会の要望などを収集して幹事会と一体になって検討してほしいとの指摘があった。
- ・英文誌関係の支出として事務局維持経費15万円を計上修正するよう指摘があった。

1-3 平成18年度会計概要報告

- ・賛助会員会費の予算と決算の乖離(710万円に対して270万円)理由は、平成18年度分未納(3団体)および平成19年度分納入遅延である。
- ・その他の予算と決算の乖離理由
 黒字：会議編集費(J-Stage：50万円)会議費(理事会等：約100万円)
 赤字：講座実施費(地域活動：約100万円)

2-3 第11回大会について

- ・大会実行委員長を幹事長に委ねたいとの提案があったが、辻本副会長にお願いすることになった。
- ・大会2日目(9月16日)昼休みに委員会開催場所確保の要請があり、準備戴ける事となった。

1-4 委員会関係

<1>普及委員会

☆ 地域活動の平成18年度実績と平成19年度計画

2-4 J-Stage利用について

編集委員会が求める投稿審査システムの利用を図るためには「ジャーナル登載」が先決であることから、過去2年(平成17年、18年)を登載すること、公開準備は編集委員会が対応することが決定された。

- ・日韓合同セミナーは交流委員会主催で良いか理事会に諮る。
- ・東京地域活動の雑誌発刊については初動していることを認識しておく。
- ・交流・パートナーシップ両委員会との連携に関する合同打合せは必要に応じて検討する。
- ・「会員の支援と増大」という委員会の目的と調和する地域活動が実施および計画されていることが確認された。

2-5 日韓合同セミナーの開催

交流委員会主催で良いことになった。

☆ 継続審議事項

4事項(①各地域の相談役、②相談窓口の名称、③継続教育CPD情報収集、④ポスターの原稿決定)について下記の意見が出された。

2) 幹事会

日時：平成19年5月15日 13:30-16:00

場所：応用生態工学会会議室(千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室)

出席：江崎幹事長、熊野副幹事長、風間幹事、鎌田幹事、萱場幹事、関根幹事

(事務局奥村：記録)

(1) 報告事項

1-1 一般経過報告；質疑なし

1-2 会員状況報告(平成19年3月末現在)

- ・名誉会員：3名
 【川那部浩哉、橘川次郎、小野勇一(敬称略)】
- ・正会員：1083名(退会届者のみ退会処理済み)
- ・学生会員：101名(退会届者のみ退会処理済み)

- ・普及委員会と地域組織の関係を再度きちんと整理する必要がある。
- ・紹介役・相談役は応用生態工学会として取り組むべきものかどうか、むしろNPOの役割ではないのか、といった疑問が生じる。
- ・ポスター作成の趣旨を明確にしたほうが良い、また、ロゴマークを優先したほうが良いのでは？

<2>情報サービス委員会

ホームページリニューアル (HP改修) に関して下記意見があった。

- ・ この機会に、他の委員会に発信したい事項 (目的・対象・コンテンツ) を求め、それにより各委員会の機能の整理を行うのがよい。
- ・ 平成18年度未実施のJ-Stageに関して、編集委員会との調整をする必要がある。

(2) 検討事項

2-1 平成19年度事業計画について

①会誌編集関係

編集委員長に持越しと成った電子ファイルでの投稿への変更 (原則として) および J-Stage 利用について現状を報告してもらう。

②その他の収益事業 (各地域講座ほか) 関係
主催名称について理事会にはかる。

例: ☆交流委員会 (中村委員長と竹門理事企画): 日韓合同セミナー

☆普及委員会・応用生態工学会札幌

: 「本来の川を取り戻すために...その3
～生息場をつくる川の流れ～」

主催: 応用生態工学札幌 共催: (独法)
土木研究所 寒地土木研究所

③ ICLEE 関係

購読者増加のための宣伝に努める。

2-2 平成19年度予算案について

- ・ 賛助会員の減少に伴う会費収入の減少に対する対応を理事会にはかる。
- ・ 未収金をなくするための方策を事務局として検討すること。

2-3 第11回名古屋大会について

実行委員会に下記の2点を提案する。

- ・ 発表件数が多い場合、口頭発表は発表時間 (15分/1編) をあまり短くすること無く、ポスター発表を増やすことに加えて分科会方式などを検討すること。
- ・ 大会3日目の地域連携に関連する発表 (午前への非会員参加費およびエクスカージョン (午後) 参加費 (正会員&非会員) は実費請求でよいが、積極的な参加を促すことに配慮すること。

(3) その他

熊野副幹事長が下記2件について対応する。

- ・ 趣意書は6月末までに作成する。
- ・ NPO 応用生態工学研究会の現状把握および課題抽出を行う。

4 第11回大会開催案内

2007年 (平成19年) 9月15日 (土) ~9月17日 (月)

(第11回総会・研究発表会・公開シンポジウム・ミニシンポジウム・エクスカージョン)

2007年 (平成19年) 9月15日 (土) ~9月17日 (月) に第11回大会 (総会・研究発表会・公開シンポジウム・ミニシンポジウム・エクスカージョン) を名古屋大学 (愛知県名古屋市千種区) および矢作川において開催します。

研究発表会への発表の募集受付を始めます。研究発表会では、研究成果と共に、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。会員の皆様の発表参加をお待ちしております。

9月16日 (日) には、「生命の水を人と生物はいかにわかちあうか? (仮称)」と題した公開シンポジウムを開催します。招待講演として、「世界水資源方針計画」 (Global Water Policy Project) の理事を務める、世界的にも高名な水資源問題研究者であるサンドラポステル氏をお招きして、『地球の淡水生態系の保全と持続可能な利用について (仮称)』をテーマとして21世紀型の河川管理の課題についてお話いただきます (同時通訳あり)。また、パネルディスカッションでは若手の研究者・技術者からも意見をいただきながら、他の参加者を交えた意見交換を行えるシンポジウムとしたいと考えています。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

9月17日 (月) には地域連携に関する発表と矢作川でのエクスカージョンを行います。

(1) 概要

【応用生態工学会第11回大会スケジュール(予定)】

9/15(土)		時刻	内容	会場	備考
午前	10:00 10:10~12:00	開会 口頭発表	IB電子情報館2F大講義室 [1F会議室011と012]	[12:00~13:00 委員会]	
午後	13:00~16:00 16:30~18:30	口頭発表 ミニシンポジウム(*)	IB電子情報館2F大講義室 [1F会議室011と012]	[18:30~ 委員会]	
9/16(日)					
午前	9:00~12:00	ポスターセッション	IB電子情報館プレゼンテーションスペース	[12:00~13:00 委員会]	
午後	13:00~16:30 16:30~18:00 18:30~20:30	公開シンポジウム(**) パネルディスカッション 総会・ポスター表彰 懇親会	IB電子情報館2F大講義室 南部食堂(懇親会)		
9/17(月)					
午前	9:00~12:00	口頭発表(地域連携)	工学研究科2号館4F241講義室		
午後	13:00~19:00	エクスカージョン	矢作川(明治用水頭首工他)		

(*)ミニシンポジウム 伊勢湾流域圏ミニシンポジウム～自然共生に向けて～

(**)公開シンポジウム テーマ「生命の水を人と生物はいかにわかちあうか? (仮称)」

招待講演演題 『地球の淡水生態系の保全と持続可能な利用について(仮称)』

—上記時間スケジュールは、変更することがありますので気をつけて下さい。詳細なスケジュールは後日ホームページなどでご案内します。—

【会場】

名古屋大学 I B 電子情報館 2F 大講義室ほか (定員 300 名)

工学研究科 2 号館 4F241 講義室 (定員 300 名)

〒464-8603 愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学東山地区

(地下鉄名城線名古屋大学駅下車徒歩 5 分)

JR 名古屋駅・名鉄新名古屋駅・近鉄名古屋駅からの場合…地下鉄東山線藤が丘行きに乗車し、

本山駅で地下鉄名城線右回りに乗り換え、名古屋大学駅下車。所要時間約 30 分(乗換含)

JR 金山駅・名鉄金山駅からの場合…地下鉄名城線左回りに乗車し、名古屋大学駅下車。所要時間約 25 分)

懇親会：名古屋大学南部食堂

(2) 研究発表募集!

応用生態工学に関わる研究報告, 研究プロジェクト提案などの一般研究発表の受付を開始します. 発表方法は, 「ポスター発表」と「口頭発表」とします. 下記要領に基づき応募して下さい.

[1] 研究発表内容

研究発表に応募できる講演内容は, 応用生態工学に関する調査報告, 研究報告, 事例報告, 研究プロジェクト提案および自由課題です. 当該発表の内容が, 現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ, 研究・調査報告が基礎的内容であってもかまいません.

[2] 発表方法

応募に当たっては, 「口頭発表」か「ポスター発表」のいずれを希望するか明記して下さい. 応募状況によっては, 実行委員会の変更をお願いする場合があります.

[3] 発表時間

口頭発表の発表時間は, 1 課題当たり 15 分(発表 12 分, 討論 3 分) 程度で, 申込数により決定します.

[4] 研究発表申込 (7月27日 (金) まで)

研究発表を申し込まれる方は, A 4 版用紙 1 枚に, 下記事項を記入の上, 事務局まで郵便, FAX, または E-mail でお送りください. 後日事務局より受付および「口頭発表」か「ポスター発表」の確認連絡をします.

——申込記入事項—— (A 4 版 1 枚)

- ①発表者名および連名者名と各々の所属 (会員番号: 連名者が非会員である場合, 番号は不要)
- ②研究発表題目
- ③連絡先 (〒, 住所, 氏名, TEL, FAX, E-mail)
- ④研究発表概要 (和文 200 字程度)
- ⑤「ポスター発表」「口頭発表」の希望
- ⑥事例報告, 研究報告, その他 の別
- ⑦キーワード (対象地域・対象生物を含め 5 つ程度)

[対象地域の例] 河川, 汽水域, 湖沼, 海域, 森林, 水田, 畑地, 道路, 都市, 農村, 等

[対象生物の例] 生態系, 陸上植物, 陸上動物, 水生植物, 底生動物, 鳥類, 魚類, 等

[5] 研究発表要旨原稿の提出 (8月17日 (金) まで)

研究発表者 (口頭発表及びポスター発表いずれも同じ) は, 研究発表要旨原稿 (A 4 版 4 枚以内) を期日までに事務局へ提出. 原稿は下記の要領に従って作成. なお, ポスター発表については, ポスター作成要領および関連スケジュールを後日連絡します.

——研究発表要旨原稿作成要領——

- ・ 研究発表要旨については査読を行いません. 要旨集にもその旨を記載いたします.
- ・ A 4 版縦, 4 枚以内ならば枚数は自由です.
- ・ 左右 15mm 以上, 上下 18mm 以上余白
- ・ 横一段組み, 中央に「講演題目」を和文にて, 14 点程度 of 文字, 2 行以内で記入
- ・ 題目の下 1 行空け右寄せで「講演者名, 連名者名, 各々の所属」を, 12 点程度 of 文字で記入
- ・ 本文は, 10.5 点・明朝
- ・ 原稿はそのまま印刷できるようプリントし, 図表等を張り付けたものを 1 部提出. メールで送付の場合は MS-Word のファイルまたは PDF ファイルの添付で御願います. 印刷は白黒です.

〔6〕 研究発表者資格

研究発表者は、応用生態工学会の正会員、学生会員、および賛助会員法人に所属する個人。なお、連名者については会員・非会員を問いません。但し、研究発表者が学生の場合、連名者に会員がいれば可とします。

〔7〕 発表賞

ポスター発表、口頭発表のそれぞれを対象とします。選考は大会実行委員会で行い、ポスター発表賞の表彰式は9月16日(日)の総会終了後に発表予定です。口頭発表賞は11月発行予定のニュースレターでお知らせします。

(3) 参加料

● 研究発表会参加料

- ： 正会員・賛助会員 6,000円
- 学生会員 3,000円
- 非会員 10,000円 (3日目午前みの場合:資料代実費)
- 学生非会員 4,000円 (3日目午前みの場合:資料代実費)

● 懇親会参加料 (一律) : 3,000円

● エクスカーション参加料 (一律) : 2,000円(予定)

アユの食べ比べがあります。定員先着30名

注1) 9月16日(日)総会のみ出席する正会員は、無料。

注2) 9月16日(日)の公開シンポジウムは無料。

注3) 研究発表会参加料には、当日配布する講演要旨集費用を含む。但し、講演要旨集のみ入手希望の方には、3,000円で販売する。

注4) 合計参加料は、参加者名を明記の上、下記指定口座に振り込む。

注5) 交通手段及び宿泊関係は各自で手配。

注6) 3日目午前のみ参加の非会員の方の資料代実費は決まり次第、ホームページでご案内します。

(4) 受付期限

- 1) 第11回研究発表会・研究発表申込受付期限: 2007年7月27日(金) 消印有効
- 2) 第11回研究発表会・研究発表要旨原稿提出期限: 2007年8月24日(金) 消印有効
- 3) 第11回総会・研究発表会一般参加申込受付期限: 2007年8月31日(金) 消印有効
- 4) 公開シンポジウム(9/16)参加申込(無料) 受付期限: 2007年8月31日(金) 消印有効

(別途ホームページ等で大会の詳細なスケジュール等をお知らせいたしますが、7月2日(月)から一般参加の申込みの受付もすでに開始していますので、E-mailで連絡いただくか、ホームページから一般参加申込み用紙をダウンロードしてFAXしてください。)

(5) 申込み及び問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL. 03-5216-8401

FAX. 03-5216-8520

E-mail: eces-manager@ecesj.com

【参加料振込先】	銀行口座	(銀行支店名)	三菱東京UFJ銀行麹町中央支店
		(口座名義)	応用生態工学会(ササキイロカガカ)
		(口座番号)	普通1302920
	郵便振替口座	(口座名義)	応用生態工学会
		(口座番号)	00140-7-404275

＜＜伊勢湾流域圏ミニシンポジウム ～自然共生にむけて～プログラム (予定)＞＞

9月15日(土) 16:30-18:30

＜＜公開シンポジウム「生命の水を人と生物はいかに分かちあうか？」プログラム (予定)＞＞

9月16日(日) 13:00 開会 講演者紹介
 13:10-14:30 招待講演 サンドラポステル氏
 『地球の淡水生態系の保全と持続可能な利用について(仮称)』
 14:40-16:30 パネルディスカッション(予定)
 話題提供 土木工学：藤田光一(国土交通省国土技術政策総合研究所)
 生態学：大森浩二(愛媛大学・沿岸環境科学研究センター)
 コーディネーター：辻本哲郎実行委員長

[講演者略歴]

ウィッテンバーグ大学で地質学及び政策科学を学び、デューク大源経済・政策の修士を取得、1983年からワールドウォッチ研究所で国際水資源問題を研究し、1988年から1994年まで同研究所の Vice President for Research を務めた。1994年に” Global Water Policy Project” を設立し、現在その理事を務めている。2002年11月には、雑誌「Scientific American」の選ぶ初代「科学的なアメリカ人 50」 ” Scientific American 50” に、科学と工学に対する功労者として名を連ねた。

5 これからの行事案内

1) 第5回日韓合同セミナー:交流委員会主催

(The 5th binational seminar on ecological engineering)のご案内

「河川における物理と生態のプロセス、およびそれらのつながり

—過去の事業結果を活かすレストレーション—」

【日時】

8月24日(金)～8月26日(日)

【場所】

北海道中標津町

【内容】

今年で五年目となる、日本・韓国の合同セミナー及び現地見学会を表記日程にて開催することになりました。24日に標津川の試験蛇行区間を見学した後、25日にはセミナーを行います。今年は「河川における物理と生態のプロセス、およびそれらのつながり」というテーマを設定しております。本テーマに関わる口頭発表、ポスター発表を実施した後、総合討論ではこれまで行われてきた自然再生事業について日韓双方の事例を紹介しつつ、

物理環境と生物群集のつながりをどの様に解明していくべきか、自然再生事業を実施した結果生じた現象は当初想定していた目標とどの様に異なり、今後どの様に活かしていくべきか等について議論する予定です。皆様のご発表、御参加をお待ちしております。

【言語】

すべて英語

【発表件数】

口頭発表：8名(両国から4名ずつ)

ポスター発表：20-30名

【行程】

8月24日(金)

13:15「根室中標津空港ロビー」集合

午後：エクスカージョン(標津川の試験蛇行区間)

夜：ホテルマルエー温泉で懇親会および宿泊

8月25日(土)

午前 10:00～午後 6:00：セミナー(ホテルマルエー温泉会議室)

夜：ホテルマルエー温泉で夕食、宿泊

8月26日(日)

朝：解散



標津川 (共生地区(自然復元地))

〔(財)リバーフロント整備センター提供〕

【参加及び発表を希望される方へ】

発表を希望される方は、講演要旨原稿のファイル(以下作成要領を参照)を添付し、7/31(火)迄にE-mailで下記アドレスにお送りください。

chibana@hydrat.u-tokyo.ac.jp

(担当: 東京大学 知花)

なお、件名は「第5回日韓合同セミナー参加」とし、本文には以下の情報をお知らせ下さい。こちらは、日本語でも構いません。

- ①発表者名および連名者名と各々の所属
- ②研究発表題目
- ③連絡先(〒,住所,氏名,TEL,FAX,E-mail)
- ④24日エクスカッションの出欠
- ⑤25日セミナーの出欠

論文発表をされない方で参加のみを希望される方は、②研究発表題目を「参加のみ希望」とお書きの上、お送りください。

【費用】

宿泊費及び講演集代として20,000円程度を予定しております。

(部分参加される方の精算は別途行います。)

【講演要旨作成要領】

発表を希望される方は、A4ワードファイルにて、偶数ページ(2, 4, 6のいずれか)で作成してください。講演要旨・発表共に言語は英語となります。

書式に関しては、余白は上下左右25mmとし、タイトル(14ポイントボールド体)、一行空けて著者及び所属(12ポイント)、一行空けてABSTRACT(12ポイント)、一行空けてKEYWORDS(12ポイント)、さらに一行空けて本文(すべて12ポイント)という形式にしてください。又、フォント

はすべてTimes New Romanで作成してください。これ以上の細かい書式等は指定いたしません。なお、発表形式(口頭発表かポスター発表)は、ご一任下さい。

2) 札幌セミナー

テーマ: 「本来の川を取り戻すために…その3」
土砂の流れがつくる“多自然川づくり”

開催予定日: 2007年8月27日(月)~28日(火)

【趣旨】

「多自然型川づくり」(1990通達)を提唱した関正和さん(1948~1995)の遺作「大地の川」(草思社、1994)に、次のような文章があります。

『多自然型川づくりをささえる学問体系や技術体系が整備され…玉石混淆の時代を抜け出して、洗練された玉ばかりの時代を迎えるまでに、今後、なお10年から15年かかることであろう。しかし、そのときには「多自然型川づくり」という辞書にも出てこない変な日本語は死後になるであろう』と。

通達から15年が経過し、国交省は「多自然型川づくりレビュー委員会」を設置(2005)しました。この委員会では、15年間に実施してきた多自然型川づくりの批評や検証をおこない、関さんが期待した玉ではなく石が多くみられる現状認識に到達したようです。この現状の解消がこれからの課題と定め、川づくり水準を向上させる技術的な検討と仕組みづくり・人づくりを踏まえ、提言(2006)にまとめました。国交省は提言を受け、“型”を外した「多自然川づくり基本方針」(2006)を新たにつくり、関係機関に通知しました。

さて、「多自然川づくり基本指針」の留意すべき事項には、「その川の川らしさをできる限り保全・創出されるように努め…」とあります。「その川の川らしさ」を具体的に言い表わす難しさに悩んでいませんか? ひとまず、「その川の営力による、その川の河床や河岸の地形攪乱の健全さが維持されていること」として私は理解しているのですが、当たらずとも遠からずではないでしょうか。

河川工学では過去から現在まで川の営力(流水圧・掃流力・二次流など)、河床や河岸の攪乱(河床変動・河岸侵食など)についての研究も重要な

テーマでした。研究結果との直結は難しいのかもしれませんが、「多自然川づくりにおける川らしさの保全・創出」のヒントがここあらも得られると、思っています。

応用生態工学は、生態学的知見を土木工学の分野に応用するための工学的手法を意識した言葉(廣瀬監修、増補応用生態工学序説、信山社サイテック p4、1999)と定義されています。生態学的知見から土木工学手法へ応用する変換作業(生態学的知見→土木工学)はそうとう困難(というよりほとんど無理)と実感してきました。発想を変えた、生態学的知見⇄土木工学～仮説→実験・検証→フィードバックという“順応的管理”の変換ループが現在提唱されています。ここで重要なことは、改変(インパクト)を実験的にその川で実施することで得られた生態学的知見の関係性を見つけること(仮説を検証すること)、そして検証された知見を今後の場の管理に活かすところです。ところが、「場の改変(インパクト)を実験的に実施する」には、「こうしたら、こうなるであろう、なぜならば、このような力量が働き、このような変化量を起こすから」という土木工学の定量的な視点による場の変化プロセスの予想を見立てられる力、すなわち仮説力が無くてはならないはずです。そうでなければ、いつまでたっても「やってみなければ分からない」という定性的あいまいさの繰り返しに終始します。これでは、仮説を立てて、その仮説を検証して評価する、という科学的な評価手法につながりません。



暑寒別川の河床低下状況

[(株)北海道技術コンサルタント 岩瀬晴夫氏撮影]

仮説力をつけるために、河川・砂防工学の研究結果の吸収が必須と考え、「本来の川を取り戻

すために・・・その1(H17、溪流・河川横断構造物の切り下げ(スリットを含む))」、「本来の川を取り戻すために・・・その2(H18、自然再生を拓く河床低下対策)」のセミナーを開催してきました。過去2回のセミナーテーマはマニアック過ぎる、という批評もありました。そこで今回(その3)は、なじみのある「H19、土砂の流れがつくる“多自然川づくり”」をテーマにしました。セミナーは、現地見学と室内講演の組み合わせです。

講演順に5人の講師の演題を紹介します。

- ① 中村太士(応用生態工学札幌代表北大院)
: はじめに、～あいさつ～
- ② 木下良作(元自由学園)
: ADPによる洪水時の流れ構造の観測
- ③ 山本晃一((財)河川環境管理財団)
: 沖積河川地形の構造とその挙動
- ④ 池田 宏(元筑波大学陸域環境研究センター)
: 山地河川の地形変化～岩川から石川へ、石川から岩川へ
- ⑤ 長谷川和義((財)河川環境管理財団)
: 山地部・沖積部における種々の流れ形態とハビタット

講演の司会は、河川工学分野から渡邊康玄さん((独法)寒地土木研究所)、河川環境経済分野から山本充さん(小樽商大院)の両名にお願いしました。

興味のある方は日時や参加費等について、下記に直接問い合わせをしてください。

問い合わせ先・・・応用生態工学札幌、千葉 南(北大院、森林生態系管理学研究室)

FAX : 011-706-3842

メール : minami-c@for.agr.hokudai.ac.jp

(文責 岩瀬晴夫)

3) 第6回北陸現地ワークショップ in 新潟

(1) 開催主旨

応用生態工学会では、これまで人と生物との関わりに就いて、生物学と土木工学との境界領域に関わる様々な問題の解決に向けて取り組んでまいりました。また、これまでの北陸現地ワークショップでは、「水と生き物」をメインテーマに、保全の現状、関連する技術、今後の方向性等に就いて議論を進めてまいりました。

今回の新潟での開催に当っては、「水と生き物」に視点を定め、信濃川と越後平野における

川とそれにつながる地域を対象に、「本来の生態系からの変化」「ネットワークとしての保全技術」「持続可能な保全活動」、さらにそれらを媒介する「水の流れ」などのテーマに就いて、一般の方々含めて幅広い皆様と一緒に考えて行くことを目的にしたいと考えております。

(2) 主催者及び実行委員会

主催者：応用生態工学会

【実行委員会の構成員】

実行委員長：玉井 信行（応用生態工学会前副会長）

実行委員：国土交通省北陸地方整備局、

新潟県、新潟市、新潟大学大学院、岐阜経済大学、(社)北陸建設弘済会、NPO 法人水環境技術研究会、(株)グリーンシグマ、(株)エコロジーサイエンス、(株)キタック、(株)国土開発センター、館下コンサルタント(株)、(株)建設技術研究所

(3) 全体テーマ

「信濃川と越後平野の水系ネットワーク」
～郷土の生きものを育む技術～

(4) 開催日時

現地見学会 : 平成 19 年 10 月 19 日 (金)
午後 (12:00~17:15 予定)
ワークショップ: 平成 19 年 10 月 20 日 (土)、
終日 (9:00~17:00 予定)
交流会 : 平成 19 年 10 月 19 日 (金)、
午後 (18:00~20:00 予定)

(5) 開催場所

現地見学会 : (信濃川下流、丸瀧、五泉市
佐瀧を予定)
ワークショップ: ウェルシティ新潟 (新潟
厚生年金会館) 臯月の間
交流会 : ウェルシティ新潟 (新潟
厚生年金会館) 羽衣の間

(6) ワークショップの実施内容

基調講演
講演
総合討論 (パネルディスカッション)
⇒実行委員長及び講演者

(7) ワークショップでの講演予定者

[敬称略、講演順不同]

森 誠一(岐阜経済大学)、佐藤 安男(新潟市)、
藤田 利昭(新潟県)、紙谷 智彦(新潟大学)、
土田 一也(新潟県)、稲川 貢(信濃川河川
事務所)、鈴木 忠彦(信濃川下流河川事務所)

(8) 参加者(予定)

全体で 200 名程度 (現地見学会 50 名、ワーク
ショップ 150 名程度)

(文責 山根 正博)

＜編集後記：事務局から＞

1) 平成 19 (2007) 年度の今後の予定

7 月 次期(第 6 期)会長・副会長候補届出期間
第 11 回大会第 3 回実行委員会(名古屋大学)
7.6 パートナーシップ委員会(名古屋)
8 月上旬 次期(第 6 期)役員候補推薦委員会
第 37 回理事会 (役員候補推薦)
8.24-26 第 5 回日韓合同セミナー: 標津川(北海道標津町)
8.27-28 札幌セミナー
9.15-16 第 30 回幹事会、第 38 回理事会 (総会資料確認)
各委員会
9.15-9.17 第 11 回名古屋大会: 名古屋大学東山地区
9.15, 17 第 11 回研究発表会、ミニシンポジウム、
エクスカージョン
9.16 第 11 回総会、ポスターセッション・表彰式
9.16 公開シンポジウム[河川整備基金助成事業]
9.19 共催: 特別講演会「生命の川」: ホテルルポール麹町
9 月下旬 ニュースレター 38 号発行 (第 11 回名古屋大会報告)
10.19-20 第 6 回北陸現地ワークショップ in 新潟
11 月 第 4 回東北現地ワークショップ
12 月 第 2 回九州地区事例発表会
12 月中旬 ニュースレター 39 号発行 (行事報告等)
12-1 月 第 31 回幹事会
12-1 月 第 39 回理事会
2 月下旬 ニュースレター 40 号発行 (会費納入依頼)
3 月 第 32 回幹事会 (平成 20 年度事業計画・予算案)
3 月 第 40 回理事会 (平成 20 年度事業計画・予算案)

2) 新事務所を大いに活用下さい。

本年 4 月 16 日(月)新事務所 (前事務所: 第 7 麹町ビルから約 50m 四ツ谷側) に移転しました。

理事会、幹事会、各委員会や東京地域の打合せにご利用いただいております。10 数名の会合が出来ますので大いに活用下さい。事前に一報下さい。

[2007 年 6 月 28 日現在会員数]

正・学生会員 1,224 名
賛助会員 42 法人(64 口)